

地域つながるプロジェクト 地域つながるスタートアッププロジェクト

— 学生による地域活動 —



2023 活動報告書

地域つながるプロジェクト 2023 地域つながるスタートアッププロジェクト 2023 活動報告書

- 01 挨拶
- 02 1 年の流れ
- 03 プロジェクト一覧
- 04 プロジェクト活動報告

地域つながるプロジェクト 2023

- 04 ❶ 柳井知っちょる?～柳井を活性化したい～
- 06 ❷ 今日から僕らは五月っ子!?
- 08 ❸ 防災意識を高めるプロジェクト
- 10 ❹ 愛する海でアップサイクルするアート!プロジェクト
- 12 ❺ 宮島観光活性化プロジェクト～観光と言語がつなぐ地域の輪～
- 14 ❻ 安芸太田に来てみんない!!
- 16 ❼ 骨を元気に!食のAAOプロジェクト
- 18 ❽ 学生地域おこし合宿in安芸高田市
- 20 ❾ ひろしま Global Bridge

地域つながるスタートアッププロジェクト 2023

- 22 ❶ 田幸を多幸に!
- 23 ❷ 知ろう!深めよう!こうよう!
- 24 ❸ 平和台団地共助プラン
- 25 ❹ 江田島に行こう
- 26 ❺ 石内を盛り上げ隊

- 27 地域つながるプロジェクト・
地域つながるスタートアッププロジェクト 2023 活動報告会

地域を知り、課題を見つけ、行動する

このたびは本学の地域つながるプロジェクト、同スタートアッププロジェクトに関心をお持ちいただき、誠にありがとうございます。そして、プロジェクトで学生と一緒に地域課題に取り組み、学生達を支えてくださった地域の方々に、心より感謝申し上げます。

地域つながるプロジェクトは、学生が地域の方々と一緒に地域課題の解決に取り組むもので、2010 年度に始まりました。コロナ禍で実施できなかった 2020 年度を除き、今年度で 13 年目になります。一方、地域つながるスタートアッププロジェクトは、「地域活動がしくて本学に入学したが、何をすればいいのかわからない」という入学間もない学生を想定し、「まずは地域のことを知り、地域の課題を発見する」さらに「地域活動をする上での心構えを身につける」ことを目的とした、いわば「地域つながるプロジェクト」への準備段階として位置付けたものです。2021 年から始め、今年で 3 年目になります。

学生の地域活動は、ややもすると「ただ、学生がやりたいことを（学外の）地域でやる」ことになり、「その活動は本当に地域で求められていることなのか、実は地域を荒らしているだけではないのか」といった疑問を持たれてしまうことも多々あります。そのため、私達は「まずは地域のことを知り、地域の課題を発見する」こと、さらに「地域活動の心構えを身につける」ことを重要視しています。活動報告会での報告を聞くと、学生たちにもその意識が根付いてきていることを感じ、嬉しく思っています。

今年度の地域つながるスタートアッププロジェクトは昨年度と同じく5件、地域つながるプロジェクトは昨年度の7件から9件に増えました。これは喜ばしいことです。しかし、私自身はプロジェクトの数が増えることよりも、取り組みの質を向上させていくことが大切だと考えています。プロジェクトの中には、スタートアッププロジェクトから地域つながるプロジェクトに移行したものや、地域つながるプロジェクトを継続したものもあります。活動を継続していくことで、取り組みがより充実したものになることを望んでいます。

実際には、学生の活動がすべて順調にいくわけではありません。地域の方々とうまく連携が取れない、学生間のコミュニケーション不足が原因で失敗するなど、活動中には多くの困難にぶつかります。実際、今年度は授業も対面に戻ったせいか、オンライン会議が減ってしまい、学生間でコミュニケーション不足に陥ったプロジェクトもありました。しかし、それらを乗り越えようとする努力と経験の積み重ねこそが学生を大きく成長させるのであり、その成長した姿を見るこそが私達の最大の喜びでもあります。この報告書を通して、学生が大きく成長した姿を感じていただければ幸いです。

2024 年 3 月

ひろしま未来協創センター センター長
川瀬 正樹

地域つながるプロジェクト 2023・

地域つながるスタートアッププロジェクト 2023

1 年の流れ

2023 年

- 1月

1月18日（水） 募集説明会
- 4月

4月12日（水）、17日（月）、21日（金） 募集説明会
- 5月

5月22日（月） 地域つながるプロジェクト応募締切
5月23日（火）～書類選考
- 6月

6月 5日（月） 選考結果発表
6月 7日（水）～13日（火） 個別説明会（執行方法等）
プロジェクトごとに活動

キックオフミーティング（熟議）

毎年、当該年度の早い段階で「熟議」の手法を取り入れています。「熟議」とは、一般的には、多くの当事者により「熟慮」や「議論」を重ねながら課題解決・政策形成をすることをいいます。それぞれのプロジェクトの関係者が集まって熟議をすることで、課題解決へのアプローチや活動の方向性を共有化しています。
- 7月
8月
9月

プロジェクトごとに活動
- 10月

中間報告 ※地域つながるプロジェクトのみ
プロジェクトごとに活動
10月31日（火） 地域つながるスタートアッププロジェクト応募締切
- 11月
12月

プロジェクトごとに活動

2024 年

- 1月

プロジェクトごとに活動
- 2月

2月16日（金） 活動報告会

地域つながるプロジェクト・地域つながるスタートアッププロジェクト2023活動報告会を開催しました。2023年度は、「地域つながるプロジェクト」で活動した9プロジェクトと地域つながるプロジェクトの準備段階の活動を行う「地域つながるスタートアッププロジェクト」の5プロジェクトが、1年間の活動を報告しました。

プロジェクト一覧

1. 地域つながるプロジェクト

プロジェクト No.	プロジェクト名	人数	プロジェクト代表者 (リーダー)	担当教職員 (所属学部)
1	柳井知っちゃる？ ～柳井を活性化したい～	5	二上 叶夢 (にかみ かなめ)	木村 弘 (商学部)
2	今日から僕らは五月っ子!?	13	國近 理人 (くにちか りひと)	川瀬 正樹 (商学部)
3	防災意識を高めるプロジェクト	10	古畑 彩花 (ふるはた あやか)	川瀬 正樹 (商学部)
4	愛する海でアップサイクルするアート!プロジェクト	8	石丸 哲平 (いしまる てっぺい)	山川 肖美 (人文学部)
5	宮島観光活性化プロジェクト ～観光と言語がつなぐ地域の輪～	12	角田 和哉 (すみだ かずや)	石田 崇 (人文学部)
6	安芸太田に来てみんさい!!	12	沖野 実優 (おきの みゆ)	森河 亮 (法学部)
7	骨を元気に!食の AAO プロジェクト	4	中山 萌菜 (なかやま もえな)	山内 有信 (健康科学部)
8	学生地域おこし合宿 in 安芸高田市	11	小田 桃花 (おだ ももか)	隅田 姿 (国際コミュニティ学部)
9	ひろしま Global Bridge	10	坂田 郁穂 (さかた いくほ)	隅田 姿 (国際コミュニティ学部)

2. 地域つながるスタートアッププロジェクト

プロジェクト No.	プロジェクト名	人数	プロジェクト代表者 (リーダー)	担当教職員 (所属学部)
1	田幸を多幸に!	3	野々下 友渚 (ののした ゆな)	澤 俊晴 (国際コミュニティ学部)
2	知ろう!深めよう!こうよう!	4	吉田 涼華 (よしだ すずか)	河口 和也 (人文学部)
3	平和台団地共助プラン	4	小原 瑞稀 (こはら みずき)	澤 俊晴 (国際コミュニティ学部)
4	江田島に行こう	6	佐々木 海来 (ささき みらい)	小須田 翔 (国際コミュニティ学部)
5	石内を盛り上げ隊	3	三島 秀斗 (みしま しゅうと)	黒阪 健吾 (経済科学部)

※地域つながるプロジェクト No. は担当教職員の所属学部、提出順に付番、スタートアッププロジェクトは提出順に付番。

来てみんさい!穴場の柳井!

プロジェクト名

柳井知っちゃう?~柳井を活性化したい~

プロジェクト概要

柳井を活性化するために知名度向上に視野を絞って活動し、活動内容として金魚ちょうちん検定の問題作成と実施、柳井市にきた時に訪れてほしいスポットを Vlog 動画にしてまとめました。



概要と具体的な活動

連携先の柳井市観光協会様とキックオフ・ミーティングをしたのち、金魚ちょうちん検定を実施することが決まったため、検定問題を作成するために柳井市に集まってミーティングをしました。そこでは、検定合格ラインの大まかな決定や問題形式の傾向について、合格者への合格証書の渡し方などについてどうするか話し合いを行いました。その後、金魚ちょうちんに詳しい方が作成された資料のもと、検定問題作成に取り掛かりました。問題作成は観光協会側と学生側で出題問題の回答形式に認識の齟齬が生じたり、検定問題で受験者の皆様に配布した資料以外からも時事問題を出題したほうが良いのではないかなど考えが異なるといった状況がありました。これに対応するため観光協会様とメールでやりとりをし、双方の考えをすり合わせながら検定問題を作成し完成させることができました。そして、9月に実際に金魚ちょうちん検定を実施し、募集定員の30名の応募があり当日は体調不良者1名を除く29名の受験者の方が受験をしました。検定は制限時間1時間で会場の厳かな雰囲気の中で、開始されました。結果としては合格者4名で全員銅賞となりました。その後、12月から1月にかけて、柳井市のオススメのスポット紹介をするため動画撮影を行いました。撮影現場には事前に許可をいただき、2グループに分かれて撮影を行いました。

活動を通しての成果と課題

1年間活動をして、柳井市の良い部分と改善したほうが良いのではないかなという点を発見することができました。この発見は柳井市を今後活性化していくために、そして柳井市に人を呼び込む為に見つけることができ



メンバー

[学生]

二上 叶夢・井沢 なつみ
井村 美結・佐々木 綾
米山 杏奈

[担当教職員]

木村 弘 (商学部)

ポスター



良かったと感じます。この成果は今後の柳井の発展に役立つと思います。検定に地元の方が多く参加してくださるのはとてもありがたく、喜ばしいことでした。しかし課題として、地域の方からの関心が高まる一方で、地元以外の方たちが参加しにくいのではと感じました。今後は地域の活気ある雰囲気を、地域の内側から外側に広げることが出来れば柳井市の魅力を外部に発信する第一歩となると考えています。私たちが撮影したオススメスポットを動画にしたように、もう一つの課題として柳井市の魅力をどうやって外部に発信していくかが今後の課題になると考えます。

参加学生の振り返り

連携先の柳井市観光協会様と協力して、地元の強みである金魚ちょうちんを使用し、検定を作成できたこと、会場運営を体験することが出来良い経験になりました。この経験は学校生活を送っているだけでは得ることが出来なかったと思います。
(商学部2年/二上 叶夢)

連携協力先の方の所感

一緒に金魚ちょうちん検定の運営を行う中で、意見の対立など、困難なこともありました。検定の基盤を作ってくれたことに感謝します。また、連絡を主にメールを使用し行っていたが、返信が早くスムーズに行うことが出来ました。
(柳井市観光協会/木阪 泰之 氏)



今日からみんなも五月っ子!!

プロジェクト名

今日から僕らは五月っ子!?

プロジェクト概要

私たちは、広島修道大学と五月が丘地区をつなげる活動をしているグループです。地域のイベントに参加してSNSを使ってPRしたり、五月が丘の方を大学に招くなど数多くの活動をして、大学と五月が丘をつなげています。



概要と具体的な活動

今年度は、これまでの活動で培ってきた地域の方とのつながりから、とても多くのイベントに参加させていただきました。これまでも参加していたイベントだけでなく、新たに参加したイベントも多くありました。活動の中でも、特に力を入れた活動が2つあります。

まず、五月が丘公民館まつりです。これまでは地域のイベントに参加者として携わってきましたが、公民館まつりでは主催者の方々と連携し、屋台の出店に関わることができました。地域の方を楽しませる立場として活動することで、準備の大切さを再認識しました。

次に、広島修道大学案内会です。いつも私たちが五月が丘に行ってイベントに参加させていただいていたので、今度は五月が丘の方に広島修道大学について知っていただくという思いで案内会を企画しました。当日は20名の方が参加してくださり、広島修道大学を楽しんでいただくことができました。皆さん楽しそうにしてくださって、存分に大学を案内することができました。

今年度の活動の最後に、活動報告会で1年間の活動成果を発表しました。今年はとても多くの活動をしましたが、プレゼンテーションを通して皆さんにそれを知っていただけたと感じています。

活動を通しての成果と課題

地域の変化と学生の成長の2つの側面から活動の成果があります。まず、地域の変化の面としては、私たち学生が地域のイベントに参加することで地域を活性化することができました。また、広島修道大学案内会で



メンバー

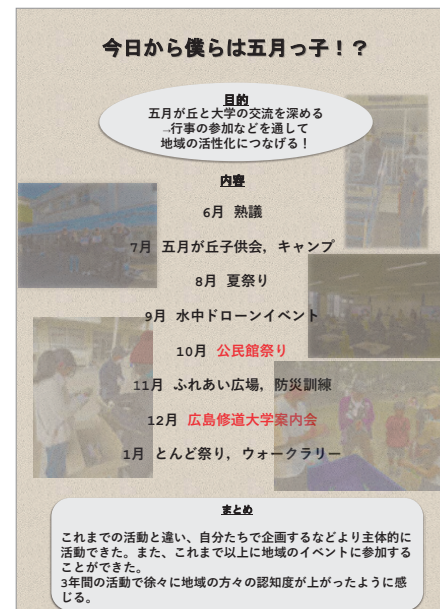
[学生]

國近 理人・前坂 綾末花
中塚 一冴・大崎 柊弥
大村 航平・高森 大和
大田 陸斗・岡 駿輔
益田 祐真・松井 凌清
山田 俊輔・福田 凜子
松浦 舞依

[担当教職員]

川瀬 正樹（商学部）

ポスター



は五月が丘の方に、大学のことを知ってもらうことができました。学生の成長面としては、五月が丘で様々な人と関わることで、コミュニケーション能力を向上させることができました。また、案内会で大学のことを説明しようとする過程で、私たちも広島修道大学をより深く知ることができました。

課題については、昨年からの課題と新たな課題があります。まず、昨年からの課題は、連携先やメンバー内での「報告・連絡・相談」が綿密にできていなかったことです。LINEグループで連絡を行うなど改善できるように努力したのですが、今年度はメンバーが多く増えたこともあり、課題が残る結果となりました。新たな課題は、SNSの活用が十分ではなかったことです。インスタグラムのアカウントはもっていましたが、今年はあまり使うことができませんでした。

参加学生の振り返り

1年間を通して様々なイベントに参加させていただくことで、特に地域住民との交流が深まったように感じます。また、私たちが主体となって活動した公民館まつりや広島修道大学案内会は、計画などの準備の難しさを知ることができました。
(国際コミュニティ学部2年/前坂 綾末花)

連携協力先の方の所感

五月が丘と広島修道大学が一番近いようで遠い距離にあると思います。今年は、昨年に引き続きイベントへの参加だけでなく大学案内会など自主性の高い活動も行い、大学と地域の距離を縮めてくれたと思っています。
(五月が丘社会福祉協議会 会長/津丸 俊二 氏)



子どもたちの防災意識を高めよう!!

プロジェクト名

防災意識を高めるプロジェクト

プロジェクト概要

大塚・伴南学区と連携して防災に関する活動を行いました。2023 年度も継続して活動を行うことで地域の方々と協力して、地域の防災意識の向上に努めました。



概要と具体的な活動

去年に引き続き大塚地区の方々と連携させていただき、12 月に「小学生のためのクリスマス防災訓練イベント」へ参加しました。大塚地区、特に A.CITY はマンションが多く小学生も多いことから、ペープサートという紙の人形劇で防災をテーマに行いました。かぎっ子の子の男の子を主人公にして、「もし家に一人でいるときに被災した場合、どのように避難したらよいか」を、参加型で楽しく知ってもらえるよう、物語中にいくつか選択肢を用意し、子どもたち自身が選択してストーリーを進めて行くようなシナリオを考えました。

今年度は、他のイベントにも参加させていただきました。9 月はアルパークとレクトで行われた西日本最大級の防災イベントの「たられば防祭」、10 月は広島工業大学の方々と共に行った「未来防災」に参加し、私たちがオリジナルで作成した「防災ビンゴ」を行いました。子どもたちでもわかりやすいセリフや内容、またビンゴといったゲーム要素などを加える工夫をしました。また、2 年連続で五月が丘の防災訓練に参加し、防災クイズを行いました。参加された防災士の方から「私でも知らない内容のものがあった」という感想をいただきました。私たちが発表したクイズを通じて、住民の方の防災意識を向上することができました。これらのイベントを通して参加してくださった方、特に子どもたちに楽しんでもらえるようにするにはどのようにしたらよいか、グループで話し合いを行いました。イベントが終わると反省会を行い反省点をみんなで共有し、次のイベントに活かしました。



メンバー

[学生]

古畑 彩花・川相 駿介
重森 優華・辻 果苗
中村 七海・佐伯 里呼
石川 美貴・小合 紗矢佳
野口 彩花・藤村 桜楽

[担当教職員]

川瀬 正樹（商学部）

ポスター



活動を通しての成果と課題

「小学生のためのクリスマス防災訓練イベント」でアンケートを行いました。子どもたちに楽しんでもらえるように工夫したこともあり、「ペープサートを通して楽しく防災を学ぶことができた」という小学生の感想を多くいただくことができたので、小学生たちの防災意識を高めることができた実感しています。週に 2 回、昼休みの時間に定例会を開いて情報共有を密に行うことができ、より良い意見交換ができました。課題としては、子どもたち同士で防災に関する意見の交流などを行うことができなかったのが、グループになって防災に関する知識を深められるイベントを行いたいと思いました。また、Instagram のフォロワーが昨年度と比較して増加しましたが、参加したイベントの情報をうまく発信することができなかったのが、SNS を活用して防災の情報をより発信していきたいと思いました。

参加学生の振り返り

今年度も、連携先である大塚地区の方々ははじめ、多くの方のご協力により、イベントや防災訓練に参加させていただきました。活動していく中で、深刻な事態に直面したこともありましたが、メンバーと切磋琢磨しながらイベントを行うことができました。

(商学部 3 年 / 中村 七海)

連携協力先の方の所感

今回のプロジェクトは、子ども達にとって楽しく防災を学ぶ貴重な経験となりました。また、皆さんの熱意、そして何よりも子ども達への細やかな配慮にも感心させられました。一緒に活動が出来た事に感謝しています。

(A.CITY 自治会 副会長 / 西田 光憲 氏)



廿日市の海から価値を創ろう！

プロジェクト名

愛する海でアップサイクルするアート！プロジェクト

プロジェクト概要

廿日市市大野地域の子どもたちと共に瀬戸内海の海洋ゴミを収集し、それをアップサイクルしながら子どもたちに創作の楽しさを感じてもらうとともに海洋ゴミの問題について当事者意識を持ってもらうことを狙いとしています。



メンバー

[学生]

石丸 哲平・神後 舞
上田 寛大・栢原 滉大
児玉 翼・信岡 穂華
藤井 真子・森川 裕太郎

[担当教職員]

山川 肖美（人文学部）

ポスター



概要と具体的な活動

私たちは主に廿日市市の大野地域で活動を行いました。6月の熟議や7月の話し合いで連携先の方々と、地域の課題と自分たちのやりたいことのすり合わせを行い、どのような取り組みをするのか、大枠を決定しました。8月からの活動として廿日市市の杓子工場に行き、杓子を作る工程を見学しました。木の町としても有名な廿日市の職人の方々の繊細な作業を見学させていただき、作成過程で出た細かな廃材などを譲っていただけることになりました。次に宮島と大野の海岸での現地調査を行いました。主にカキの養殖用パイプなどどのようなゴミが多いか知り、アップサイクルの講座で子どもたちと一緒に作るものを想像することが出来ました。また、フジタスクエアまるくる大野主催の講座に参加し、子どもたちと事前に関わることで活動でどのような事に配慮しなければならないか、子どもたちの魅力やそれを引き出すためのサポートとは何かを事前に知り、本番に活かすことができました。現地調査の後には本番に向けたプレ活動も行いました。本番と同様の時間でゴミ拾いをし、そのゴミと杓子工場の廃材を使用し、どんなものを作れるか相談しながら各自試作を行いました。想定している時間より短い時間で疲労感が出ることや、テーマを決めることに時間がかかることなどが分かり、適宜修正を行い本番に備えました。本番1日目のオリエンテーションでは、海洋問題の専門家の先生をお呼びし、学童保育の子どもたちと一緒に海洋ゴミについて学びました。清掃活動では、子どもたち数人と鳴川海岸へ行き、講師の先生の説明を受けながら海岸清掃を行いました。活動を通して、海洋ゴミの知識と現状を肌で感じる事が出来ました。2日目の創作活動では1日目に拾ったごみなどを使い各々海の生き物やおもちゃなど創造力を働かせながら作っていました。作ったものはフジタスクエアまるくる大野に飾らせていただき地域の方にも見ていただくことで、地域へ成果を還元しました。



活動を通しての成果と課題

プロジェクトの成果は海洋ごみ問題について知るきっかけ作りがフジタスクエアまるくる大野での講座を通じて子どもたちへできたことです。また子どもたちの活動や作品展示を通じて地域の方たちへも広げることができました。活動を進める中で、学生が地域を知ることができたことは勿論、実施に至るまでのプロセスで教育学の知見を活かした講座の策定や子どもたちへの教育的介入を体験的に学習できました。

課題は、地域への貢献度をデータ化して示すことができなかったことです。自分たちがしたいことが十分にできた一方で、その活動が地域へどう影響を与えたかを把握することができなかったために地域への成果の還元が不明瞭であったという現状にあります。実施することよりも、継続させることの方が難しいということ学びました。

参加学生の振り返り

プロジェクトの計画、実施、振り返りを通して活動の対象とした大野地域を含め多くの地域の特色を知ることができました。地域の活力が低下している現代でどのようにして地域とつながるのかを考えるよい機会となりました。
(人文学部3年／児玉 翼)

連携協力先の方の所感

地域を知らない学生にとってのシビックプライドにつながるアプローチは困難なものであったと思われます。そうした中でアップサイクルというところまで踏み込んだチャレンジ精神は地域に住む私達にとっても大きな刺激となりました。
(フジタスクエアまるくる大野 子育て支援センター／松本 雅知 氏)



中江町を宮島第3の観光地へ!

プロジェクト名

宮島観光活性化プロジェクト
～観光と言語がつなぐ地域の輪～

プロジェクト概要

本プロジェクトは、観光地としての宮島が抱える観光や言語に関わる課題に取り組み、地元住民と外国人観光客が共生できる宮島観光の実現を目指します。



メンバー

[学生]

角田 和哉・後藤 直志
岩切 英寿・山本 梨紗子
須賀 純花・戎 怜亜
坂本 凜・土井 希々果
藤田 梨央・百坂 昇悟
杉原 音羽・宮本 瑛史

[担当教職員]

石田 崇 (人文学部)

ポスター



概要と具体的な活動

当プロジェクトは、観光と言語という2つの側面から宮島の観光活性化に取り組みました。まず観光の側面からは、昨年度行った現地調査により、観光客の滞在時間の短さや商店街等への過度な集中などの問題が明らかになりました。これらを解決するために、宮島の新たな観光地点の活性化を目指し、歴史ある「中江町(ちゅうえまち)」に注目しました。具体的には、まず、中江町の認知を向上させるためにテレビやラジオ、SNSで情報を発信しました。また、例年開催されている「ちゅうえマルシェ」に企画段階から携わり、地元の方々の方々だけではなく、帝京大学三竝ゼミと協力し、中江町のコセプトを「古風な雰囲気に新しい風が吹く町に」とし、ドリンクの考案や販売などを行いました。その他にも、年末の鎮火祭で用いられる小松明を作成するワークショップをNTT西日本中国様と開催しました。

次に、言語の側面では昨年度の活動から「英語圏外の外国人観光客への情報伝達」が課題として見えてきました。これを踏まえ、今年度は「やさしい日本語」に注目しました。具体的には、外国人観光客への聞き取り調査を元に、やさしい日本語を用いたフリーペーパーを作成し、宮島全体で遭遇しそうな場面を想定したフリーペーパーを5枚作成しゲストハウス三國屋様に設置しました。

このように、自分たちが考案したコンセプトを基に、観光と言語という2つの側面から中江町を持続可能な観光地にするために、やさしい日本語やイベント情報を中江町ホームページのブログページに更新してきました。

活動を通しての成果と課題

当プロジェクトは大きく2点の成果をあげることができました。1点目は、中江町を多くの方に認知してもらい、

実際に来ていただいたことです。2点目は、やさしい日本語の取り組みにおける調査から明らかになった「日本語で観光がしてみたい」という外国人観光客の思いを実現することができました。

一方で、今後の課題も見えてきました。まず、やさしい日本語は「日本語を50時間程度勉強した方を対象にしている」と言われており、その難易度の高さを痛感しました。今後は、観光地におけるより適切な表現を模索する必要があります。次に、中江町でのイベント開催により、この地区に必要とされているのは、「観光客と住民が共生できるような質の高い観光」ではないかということが見えました。この点を踏まえ、持続可能な観光地として活性化に取り組む必要があります。

参加学生の振り返り

観光と言語の異なった側面から活動範囲を広げることができ、活動を重ねるたびに地域の新たな魅力や課題を発見することができました。困難も沢山ありましたが前進することができ、地域との関わりを持てたことは貴重な経験となりました。
(人間環境学部3年/山本 梨紗子)

連携協力先の方の所感

学生さん達の心の熱量が中江町の方々、連携先企業・自治体の方々、テレビ局の方々、そして東京の私の心にも伝わり、動かし、事業を形にして成し遂げたのは本当にすごい。感動しました。来年度の継続に、期待します。
(帝京大学経済学部 専任講師/三竝 康平 先生)



安芸太田町を好きになってもらいたい!

プロジェクト名

安芸太田に来てみんない!!

プロジェクト概要

広島県安芸太田町を好きになってもらうことを目的として活動しています。特にイノシシカレーをPRするため、加計高校の生徒や事業者の方と連携、イベント出店支援などを行います。



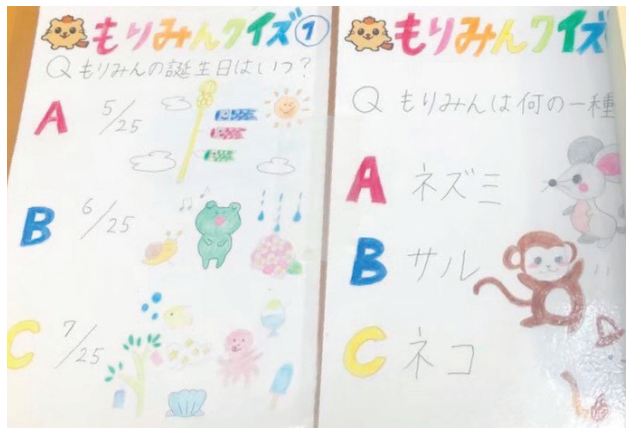
概要と具体的な活動

私たちは 2021 年度のスタートアッププロジェクト、2022 年度の地域つながるプロジェクトから継続し、今年で結成 3 年目を迎えます。今年度は安芸太田町を好きになってもらうことを活動目的に、観光名所やイノシシカレーなどを PR することを活動目標に掲げて活動しました。

目標達成のために、主に 2 つのことを行いました。1 つ目は、観光名所である三段峡でのイベント開催です。豪雨の影響で遮断されていた三段峡の遊歩道が 9 月に開通することを記念し、遊歩道を歩きながら楽しむクイズを実施しました。2 つ目は、菊芋イノシシカレーの開発です。菊芋イノシシカレーとは、安芸太田町加計地域にある加計高校が開発する「きくいもぼうだぁ」と三段峡にあるレストランの黒淵荘で販売されている「イノシシカレー」を融合した商品です。私たちが開発の提案を行い、試作を経て実現しました。12 月に広島市南区で開催された「あっ“たまる”比治山」というイベントでは、安芸太田町の官民学と連携し、菊芋イノシシカレーの販売、安芸太田町産の食材の販売、私たちが作成した安芸太田町の PR チラシ配布などを実施しました。

活動を通しての成果と課題

活動の成果は、安芸太田町の観光名所や魅力的な食材を多くの方に知っていただけたことです。三段峡イベントは、約 50 名にご参加いただきました。あっ“たまる”比治山では、イノシシカレーやイノシシ汁、井仁の棚田のお米など安芸太田町の商品を販売し、すべて完売しました。また、162 名に PR チラシをお配りす



メンバー

[学生]

沖野 実優・佐藤 爽香
大下 雄生・島川 昇大
山岡 みのり・飯塚 祥人
仁佐 勇貴・藤川 遥
中原 朱理・森王 香衣
濱田 朋希・新井 萌愛

[担当教職員]

森河 亮 (法学部)

ポスター



ることで安芸太田町の魅力発信につながり、地域に貢献できたと思います。

活動の課題は、報告・連絡・相談です。三段峡イベントの企画時期が夏休みであったため大学で顔を合わせる機会が少なく、SNS での共有のみで対面での話し合いを行っていませんでした。その結果、特定の人だけに負担がかかってしまいました。

イベント後、メンバー同士で集まり、改善策を考えました。改善策として、LINE での工夫や週 1 回のミーティングを設けるなど、再度コミュニケーション不足が起きないようにメンバー同士で気を付けました。また、あっ“たまる”比治山に向けて週ごとに計画を考えて実行しました。そのお陰で、イベント当日は念入りの準備とメンバー同士や地域の方とのコミュニケーションによって臨機応変に対応できました。これからも報告・連絡・相談を強化しようと思います。

参加学生の振り返り

3 年目は活動の範囲拡大や活動内容をより濃いものにできました。また、メンバー、先生、ひろしま未来創創センターの方、地域の方に沢山助けていただき、3 年間リーダーという貴重な経験ができました。本当にありがとうございました。

(国際コミュニティ学部 3 年/沖野 実優)

連携協力先の方の所感

素敵な企画に参加させていただき、ありがとうございました。持続可能な地域活性化が求められる中、地域の事業者、高校と協力体制のもと進めてこられたこの企画が安芸太田に活気をもたらしてくれました。

(みらい株式会社/後藤 大作 氏)



みんなで骨活!

プロジェクト名

骨を元気に! 食の AAO プロジェクト

プロジェクト概要

高齢者の骨や食に対する意識向上と骨密度維持・増進を目的とします。実際に骨密度を測定し、骨に関する栄養教室や大切な栄養素を含むお弁当の作成・配布を行います。



概要と具体的な活動

私たちは大塚に住む高齢者の骨や食に対する意識向上と骨密度維持・増進を目的に活動しました。4月に連携先の A.CITY ひとまちネットワークの方と事前に活動方針について話し合っていたため、6月の熟議では活動内容の再確認と活動の詳細について話し合いました。7月には参加者の方々に集まっていただき、活動方針・内容に加えて、活動の効果指標として用いる食事調査や生活活動調査等の説明会を行いました。9月の第1弾では、骨密度測定、骨粗しょう症や骨に大事な栄養素についての教室、骨に大事な栄養素を意識して作成したお弁当を提供しました。10月の第2弾では、参加者のご要望に対応してたんぱく質についての教室を開催しました。さらに、高齢者の運動について研究している方から学生があらかじめレクチャーを受けた運動を参加者の方々と一緒に行いました。11月の第3弾では、上級睡眠健康指導士の方を講師としてお招きし、骨と睡眠に関する講演をしていただきました。その後、睡眠に関する栄養素を意識して作成したお弁当を提供しました。12月の第4弾では、再度骨密度を測定し、食事内容や活動量の変化も併せて総合的に評価を行い、とくに良い方向に向かった方の表彰を行いました。また、活動を通じての栄養学的総まとめとしてのお弁当を提供するとともに、今まで作成したお弁当やその他参考となるレシピをまとめた冊子を配布しました。さらに、2月には、これまでの活動の想起と継続を意識していただくために、骨に関する自作キャラクターのマグネットを配布しました。



メンバー

[学生]

中山 萌菜・藤廣 和香
田渡 そのか・吉岡 佑菜

[担当教職員]

山内 有信 (健康科学部)

ポスター



活動を通しての成果と課題

活動成果は、骨密度が13名中9名の方で低下抑制、1名の方で改善という結果を得られたことです。また、「改めて、継続することが大切なのだった」「普段の家庭での食事は塩分が多いことに気づいた」「骨には食事・運動・睡眠の全てが繋がっていることを知った」等の意識の変化に関するお声をいただき、食・運動・睡眠のバランスの重要性を再確認していただくきっかけになったと考えています。一方、一人一人の参加者の方との交流があまりできなかったことが課題として残りました。今後は、イベント内に学生と参加者が交流する時間を設けたりする等タイムスケジュールの工夫が必要だと思いました。

参加学生の振り返り

1からイベントの企画・開催を行ったことで、考えを実行に移すことの難しさや計画性、情報共有の重要性を学びました。「次の教室が楽しみ」「このプロジェクトに参加してよかった」等の言葉がとてうれしかったです。
(健康科学部2年/藤廣 和香)

連携協力先の方の所感

今回の企画で、参加者は骨密度の向上や健康維持に役立つ貴重な知識を得ることができました。皆さんの熱意と温かいサポートが伝わり、プロジェクトは大成功でした。一緒に活動することができてとても楽しかったです。
(A.CITY ひとまちネットワーク/西田 光憲 氏)



地域の方と作り上げる SDGs フェスタ in 安芸高田市

プロジェクト名

学生地域おこし合宿 in 安芸高田市

プロジェクト概要

私たちは安芸高田市の閉校となった小学校を活用し、日本人学生、留学生、定住外国人と安芸高田市市民の方々が集うコミュニティを創る活動を行います。



概要と具体的な活動

私たちは若者と留学生と地域の3者間のコミュニケーションを構築することを目的として、活動を進めてきました。最初に私たちは安芸高田市を訪問して、地域の方にインタビューを行いました。地域にどんな課題があるのかを知ることから始め、どんなことをしてほしいと思っているのか、地域の方のニーズに沿った活動を考えることにしました。その結果、地域交流の場として閉校した小学校を使って SDGs フェスタを開催することが決定しました。閉校した小学校をどう活用するか何度も熟議を重ねた結果、教室はワークショップで使い、体育館は出店者ブース会場として使用、ステージでは音楽演奏、講演、運動体験、グラウンドはキッチンカーなどの飲食店ブースとして活用することに決めました。

イベントを開催するにあたって、まず私たちは出店者を集うためにチラシを作成しました。私たちもブースを1つ出すことに決まり、国際交流を目的として本学の留学生に母国紹介のポスターを作ってもらい、それを地域の方に紹介する留学生ブースを出しました。また、子供も楽しむことが出来るようにするためにスタンプラリーも行いました。集客のために広報用のチラシの作成、Instagramの開設を行いました。イベント当日に使用するパンフレットも作成しました。イベントの設営にも携わり、当日は主に受付、案内をしました。

活動を通しての成果と課題

一年間の活動を通して、地域の方同士の繋がりやのきっかけを作ることが出来たと考えられます。一年間の活動の中で、一つのイベントを開催するために多くの方が協力してくださったことで、私たち学生も多くの人と関



メンバー

[学生]

小田 桃花・山田 愛理
竹内 望結・松本 大翔
村岡 美南・土佐岡 拓未
三上 達也・若宮 悠
Lee Seohyeon
Lee Yun-Yun
Nguyen Hoang Minh Tam

[担当教職員]

隅田 姿
(国際コミュニティ学部)

ポスター

学生地域おこし合宿 in 安芸高田市

背景
○地域内交流の場の必要性
○安芸高田市の外国人労働者に着目
若者と国際・地域交流

年間スケジュール

- 4・5月 活動企画
- 6月 キックオフミーティング
- 7月 現地調査
- 8・9月 熟議・内容作成
- 10・11月 準備
- 12月 現地訪問 会場準備
- 12月10日 SDGsフェスタ

苦労したpoint

- ★どうやってまとめていく？
- ☆地域のニーズ多すぎ問題
- ⇒やりたい事多すぎ！！
- ★役割分担どうする…？
- ☆地域の方との密な連携むずかしい～

学んだこと

- 様々な手段使う・工夫する
- イベント運営のノウハウ取得
- 実際に見聞する！
- 地域の人とのコミュニケーションスキル

わる機会を得ることが出来ました。課題としては広報活動が十分にできなかったこと、現地訪問の回数が少なかったこと、出店者との密な関わりが出来なかったこと、継続して行う必要があることなどが挙げられます。また、Instagramのアカウントを連携団体の方に開設していただき、投稿はほとんど学生がしていましたが、継続性を狙うためには連携団体の方にもInstagramの活用方法を伝えながら進めていくべきだったという課題も見つかりました。定住外国人と地域の方がもっと気軽に話せるようなブースも一つ作っておけば、交流がみられたと思うので、その点も課題に感じています。

参加学生の振り返り

始めた頃は、具体的に何ができるのか、どんなことをしていけばいいのかが定まらずに不安が大きかったと思います。ですが、現地訪問や地域の方との密な関わりにより、一緒に何かを作り上げることができる楽しさを学ぶことができました。
(国際コミュニティ学部3年/山田 愛理)

連携協力先の方の所感

合宿がチーム名につくほど安芸高田は遠い。不利な環境から SDGs 目標 17 を上手に地域・若者同士との交流に展開し、SDGs フェスタが冬の安芸高田で花開きました。地域交流で帰りが遅くなり、無事が気になったのが懐かしいです。楽しい時間!! 有難う
(一般社団法人地域 QOL 研究所/田村 眞悠 氏)



外国人が安心して暮らせる廿日市

プロジェクト名

ひろしま Global Bridge

プロジェクト概要

本プロジェクトでは、廿日市市における外国人が暮らしやすい地域づくりに貢献するため、ハザードマップとゴミ分別表の多言語版を作成・配布することを目指します。



概要と具体的な活動

このプロジェクトは、広島県廿日市市に在住する外国人が快適に生活できる環境を整備することを目的としています。具体的には、多言語版のハザードマップとゴミ分別表を作成・入手し、市内で配布することで、外国人の生活をサポートすることを目指しました。活動企画の初期では、廿日市市国際交流協会や日本語教室で外国人のニーズを聞き取り、グローバル運動会や多国籍料理教室など様々な案を検討しました。しかし、実施の可能性や中長期的な効果について何度も話し合いを重ねた結果、最終的には、外国人の日々の生活に喫緊に必要なもの、効果の持続性の観点から上記の活動に決定しました。ハザードマップは廿日市市の危機管理課が作成した日本語版を元に、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語に翻訳しました。これらの翻訳は本学教員によるネイティブチェックを受けています。ゴミ分別表は2月に廿日市市の循環型社会推進課が作成する多言語版を入手する予定で、完成したハザードマップ・ゴミ分別表は2月以降、廿日市市国際交流協会ほか市内6か所に配布を行う予定です。

活動を通しての成果と課題

活動の成果としては、様々な方にインタビューをしたり、アドバイスを頂いたりする中で、色々な視点からプロジェクト活動について考えることができ、最終的な活動の決定ができたことです。元々は運動会や料理教室などのイベントを考えていましたが、地域に一時的な効果をもたらす活動よりも長期的な効果をもたらす活動の方がいいとアドバイスを頂き、多言語版ハザードマップの作成・配布と多言語版ゴミ分別表の配布に取り組む



メンバー

[学生]

坂田 郁穂・西嶋 海夏
浅井 仁子・後藤 涼太
松廣 理沙・安部 直人
宇野 友勝・大矢 美羽
上重 茉央・水野 学心

[担当教職員]

隅田 姿
(国際コミュニティ学部)

ポスター



ことになりました。

そして、この活動をする中で、多言語版ハザードマップの配布では、外国人の方々に防災情報を伝える手段が増え、緊急時に取るべき行動を知ってもらうきっかけになり、彼ら自身の命を守ることに繋がります。ゴミ分別表の配布では、ゴミ分別に困っている外国人、ゴミ分別問題に悩まされている地域の方々、双方の問題解決に寄与します。

今後の課題としては、現状では、この活動が地域にどのような効果をもたらすのかについては検証できていないため、多言語版ハザードマップ、多言語版ゴミ分別表を配布する中で、検証していきたいです。

参加学生の振り返り

この活動では外部との連携が多く、協議しながら作業を行う必要があったため、各自の役割に責任を持ち計画を進めることが出来ました。また、自身の柔軟性と計画性を養うだけでなく、地域社会の発展に貢献できました。
(国際コミュニティ学部3年／大矢 美羽)

連携協力先の方の所感

地域つながるプロジェクトでの活動おつかれさまでした。廿日市市在住の外国人市民の生活を守り、支援することにつながるすばらしい活動だと思います。今後、地域のまちづくりなどに大いに活用させていただきます。
(廿日市市国際交流協会 事務局長／太泰 淑史 氏)



プロジェクト名

田幸を多幸に!

プロジェクト概要

私たちは、三次市田幸地区の活性化を最終目標として掲げています。今年度は三次市役所・田幸地区連合会の皆様と連携させて頂き、田幸地区の魅力を発見する活動を行いました。

メンバー

〔学生〕野々下 友渚・藤川 結有・末益 遼太郎
〔担当教職員〕澤 俊晴（国際コミュニティ学部）



概要と具体的な活動

三次市田幸地区の活性化を最終ゴールに設定し、三次市役所・田幸地区連合会をはじめとした地域の皆様と連携させて頂きました。主な活動としては、地域を知ってもらえるきっかけとなる魅力や特色を発見しました。活動を始めてすぐ、連合会の方から田幸地区に関する歴史や建物・商店街や今の地域の現状を詳しくお話しいただき、どのように活動を進めていくかの会議を行いました。その後、お話しいただいた場所を地域の方の案内のもと歩いて周り、現状を自分たちの目で確かめました。その上で魅力あふれる田幸地区を活性化に向けてどの角度からアプローチしていくべきか分析した結果、定住人口の増加に向けて活動するべきなのではないかという結論を出しました。他にも、「田幸縁日」では受付や駄菓子屋、「田幸まるごと農まつり」では受付やくじ引きの手伝いをさせていただき多くの地域の方とかかわりを作るきっかけになりました。これには幅広い年代の方が訪れており、地域の方同士でお話する場面を多く見かけたことや来場者のほとんどが知り合いであったことから地域のつながりの強さを感じることができました。

参加学生の振り返り

始めた当初は観光や農業による活性化を考えていました。ですが、活動を通して定住人口の増加を目指す方が効果的だと感じました。このことから現地に出向き、視点を変えて考えてみるのが大切だと感じました。

（国際コミュニティ学部 1 年／藤川 結有）



プロジェクト名

知ろう!深めよう!こうよう!

プロジェクト概要

安佐北区高陽エリアの抱える問題を発見することを目的として活動しました。実際に現地に足を運び、主に地域食堂に着目し、地域の方と関わりながら地域課題の発見・分析を行いました。

メンバー

〔学生〕吉田 涼華・福田 優那・榎岡 未侑香・山根 美咲
〔担当教職員〕河口 和也（人文学部）



概要と具体的な活動

まず初めに高陽エリアの現状についてインターネット等で調べ、いくつか仮説を立てました。そして高陽に住んでいるメンバーの案内のもと、高陽エリア全体を見て回り、気づきをまとめました。その調査の中で出会ったのが地域食堂という存在です。真亀公民館で月に 1 回行われている地域食堂には、その地区に住んでいる住民が沢山訪れます。ボランティアの人や訪れた人と一緒にご飯を食べながら会話をし、より深いお話を聞くことができました。何度か地域食堂に足を運びましたが、食事の数に制限があり私達が食べられないほど、多くの人が訪れていることもありました。地域食堂の会長からお話を聞くことができ、真亀公民館に地域食堂ができた経緯などを知ることができました。

また、12 月には口田公民館の子ども食堂を訪れ、1 月には実際にボランティアとして参加させていただきました。

地域の方と共に子ども食堂のお手伝いをしながら、高陽の現状やボランティアの人達の地域への思いを知り、解決すべき課題も見つけることができました。

参加学生の振り返り

高陽を知りたい!という気持ちで始まった私達のプロジェクトですが、初めは何からすれば良いかわからず、取り敢えず現地に足を運びました。行き当たりばったりの調査でしたが、行く度に新しい発見があり、地域食堂という場所を通じた地域の人との交流は、楽しい学びと共に私達を成長させてくれたと思います。

（人文学部 2 年／山根 美咲）



プロジェクト名

平和台団地共助プラン

プロジェクト概要

現在の平和台団地では町内会に参加する人数が減っておりその問題の解決策を町内会の方と広島銀行の方と一緒に考え、参加者を増やすことが私たちの目標です。

メンバー

[学生] 小原 瑞稀・加藤 瑠菜・荒上 咲良・林 陽花
[担当教職員] 澤 俊晴（国際コミュニティ学部）



概要と具体的な活動

私たち平和台団地共助プランは、広島市安佐南区平和台団地エリアを対象地域として定め、地域の方との話し合いや実際に対象地域を視察することで課題発見とその解決策の提案を行いました。具体的には、町内会会員数が減少していることや、災害などの非常事態の際避難する人が少数であり、スムーズに避難を進めることが困難であるというような地域が抱える問題について実際に団地に足を運ぶことによって、住んでいる人たちの目線からどうしたらこの問題を解決できるのかを考えました。また、実際に行われている他の町内会の取り組みを参考にすることで、平和台団地でもこの取り組みが出来るのではないかと現実的な対策を考えることが出来ました。その他にも広島銀行安支店の方にもお話を伺い、災害などが起きたときにあると便利なグッズも教えて頂きました。実際に行われている取り組み・グッズを知り、住んでいる住民からの視点に立って考えることで、実現可能な解決策を提案することができました。

参加学生の振り返り

解決策を考えるのは難しいのではと思っていましたが、町内会長さまと広島銀行の方々とお話していくことで現実的な解決策を提案できたと思います。この解決策を使って平和台団地の問題が減少すれば嬉しいです。

（国際コミュニティ学部2年／小原 瑞稀）



プロジェクト名

江田島に行こう

プロジェクト概要

観光の観点から江田島の課題を発見することを目的に、江田島を訪れ現状を調査しました。訪れた先で地域の方と交流しながら、私たちにできること、課題の解決策を考えました。

メンバー

[学生] 佐々木 海来・廣兼 愛莉・石橋 輝樹・飯塚 悠月
江原 陸・飯田 巧
[担当教職員] 小須田 翔（国際コミュニティ学部）



概要と具体的な活動

私たちは活動を始めた時期が遅く、本格的に動き始めたのが9月からでした。10月に活動メンバーと共に江田島を訪れ、江田島の現状を知りました。そもそも私たちはこの活動以前で江田島を1回程度しか訪れたことが無かったため、江田島という地域を知ることから始める必要がありました。メンバーそれぞれが江田島の観光地、飲食店を調べ、江田島全体を見て回ったり、地域のイベントに参加したりしました。11月には、10月の江田島訪問の時に行くことが出来なかった地域を訪れました。1月には、実際に自転車をレンタルして観光としておすすめされているサイクリングを体験しました。これらの体験から江田島市の観光としての課題が見えてきました。若い人や観光客が少ないこと、道が狭く移動手段が少ないこと、江田島市の魅力を発信する媒体が少ないことです。それらを踏まえ、私たちができることとして、YouTubeショート動画用に「江田島の魅力を発信する」ためのPR動画を作成しました。

参加学生の振り返り

活動を通して、地域の課題を発見するための観察力と課題に対してどのようなアプローチを行い課題解決に導いていくかという思考力、行動力などが養われました。それと同時に、チーム内で情報を共有することやメンバー同士のスケジュールの調整が難しいと痛感しました。

（経済科学部3年／江原 陸）



プロジェクト名

石内を盛り上げ隊

プロジェクト概要

私たちは石内をフィールドとして、石内に関する様々なデータを分析したり実際に石内公民館を訪問して歴史や地形を学ぶことで、石内の課題を発見することを目指しました。

メンバー

〔学生〕 三島 秀斗・藤田 幸希・藤金 俊輔

〔担当教職員〕 黒阪 健吾（経済科学部）



概要と具体的な活動

私たちが石内で活動するにあたってまず初めに行ったことは、広島県のウェブサイトで石内の観光名所や人口比率のデータについて調べることでした。

その後、過疎化がこの地域の問題ではないのかと仮説を立て、実際に石内でヒアリングを行いました。石内公民館では、石内には市街化調整区域があるため、新しい住民が入ってきにくい場所であるという話を聞くことができました。また、広島県の天然記念物に指定されている神原の枝垂れ桜や、昔温泉が湧いていたといわれている湯戸の井戸、公民館のシンボリック存在である弥生式住居などの観光名所についても聞くことができました。

さらに、公民館の方からお聞きした内容とデータをもとに、チーム全員で石内の問題を発見する会議を行いました。その結果、石内の問題は「人が出ていくことによる過疎化ではなく、人が入ってこないことから起こる過疎化である」という結論を出しました。これらの分析結果をもとにして、二月の活動報告会で発表するパワーポイントの作成を行いました。

参加学生の振り返り

3、4 か月という短い期間の中で石内に関するデータの分析や現地への訪問などを行ったので非常に大変でしたが、目標を達成するために仲間とともに試行錯誤を積み重ねたことは私にとって実りのある体験であったと思います。

（経済科学部 2 年／藤田 幸希）



地域つながるプロジェクト・ 地域つながるスタートアッププロジェクト 2023 活動報告会

日 時 2024 年 2 月 16 日（金）

第 1 部 地域つながるスタートアッププロジェクト 10:20 ~ 11:30

第 2 部 地域つながるプロジェクト 13:00 ~ 16:00

場 所 広島修道大学 3号館 3101教室



活動報告会の第 1 部では「地域つながるスタートアッププロジェクト」として活動した 5 プロジェクトがプレゼンテーションを行い、第 2 部では「地域つながるプロジェクト」として活動した 9 プロジェクトが、プレゼンテーションおよびポスターセッションにより 1 年間の活動内容を報告しました。自治体・企業・団体・他大学の方々や、本学学生・教職員など、約 210 名の方々にご参加いただきました。

また、第 1 部、第 2 部ともに、プレゼンテーションの後にはご協力いただいた学外の方や担当教員より、活動に対するコメントをいただきました。コメントでは、学生の活動によって地域の方々や関係者の方々にどのような変化があったか、学生がどのように成長したか、今後の活動に何を期待するか等、様々なご意見、ご感想をいただきました。ご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



【第1部 地域つながるスタートアッププロジェクト】

プレゼンテーション 10:30～11:20

「地域つながるスタートアッププロジェクト」は、地域を知り、地域の抱える問題を発見することにより、活動に必要な心構えや知識を身に付けることを目的とした「地域つながるプロジェクト」の準備段階の活動を行うプロジェクトです。1年間の活動内容、活動を通しての気づきや今後の活動への意気込みをまとめ、発表しました。



【第2部 地域つながるプロジェクト】

プレゼンテーション 13:10～15:00

各プロジェクトが、それぞれの地域の課題に取り組んだ活動内容や成果を、プレゼンテーションにより報告しました。決められた時間内に1年分の活動を分かりやすく報告するため、事前に会場等で何度も練習をし、当日のプレゼンテーションの見え方や、声の聞こえ方などを確認しました。本番では、準備を重ねた成果を発揮することができました。



ポスターセッション 15:00～15:30

プレゼンテーションに続いて、ポスターセッションが行われました。プロジェクトごとに自作したポスターの前に立ち、来場者の方々へ向けて報告しました。プレゼンテーションで伝えきれなかった内容や活動を通して感じたことを、作成した成果物等を手にとって説明し、プレゼンテーションを聞いての疑問や詳細について、来場者から質問を受けました。



表彰

地域つながるプロジェクトについては、審査員による評価・審査を行いました。審査は、「発表・表現力・対応力に対する評価」が30点、「プロジェクトの実績及び活動内容・計画性に対する評価」が60点、「その他付加的な評価」が10点の100点満点で行われました。審査員5名による審査結果をもとに、各賞の評価指標に沿って受賞プロジェクトが決定され、そのうち総合点数の最も高いプロジェクトには「最優秀賞」が贈られました。2023年度受賞プロジェクトは以下の通りです。

👑 **最優秀賞** 「宮島観光活性化プロジェクト～観光と言語がつなぐ地域の輪～」

👑 **プレゼン賞***1 「柳井知っちょる?～柳井を活性化したい～」
「防災意識を高めるプロジェクト」

👑 **ポスター賞***2 「宮島観光活性化プロジェクト～観光と言語がつなぐ地域の輪～」
「ひろしまGlobal Bridge」

👑 **ひろみら賞***3 「愛する海でアップサイクルするアート!プロジェクト」
「学生地域おこし合宿 in 安芸高田市」

👑 **プロジェクトマネジメント賞***4
「安芸太田に来てみんさい!!」

👑 **内容充実賞***5 「骨を元気に!食のAAO プロジェクト」

👑 **地域連携賞***6 「今日から僕らは五月っ子!」

- *1 プレゼン賞…プレゼンテーションの評価が高いプロジェクト
- *2 ポスター賞…ポスターの評価が高いプロジェクト
- *3 ひろみら賞…すべての項目においてバランスよく評価されたプロジェクト
- *4 プロジェクトマネジメント賞…目的や計画性に関する評価が高いプロジェクト
- *5 内容充実賞…内容の充実度に関する評価が高いプロジェクト
- *6 地域連携賞…地域連携に関する評価が高いプロジェクト





広島修道大学

[ひろしま未来協創センター]

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号

TEL.082-830-1409